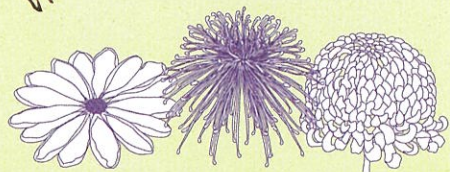
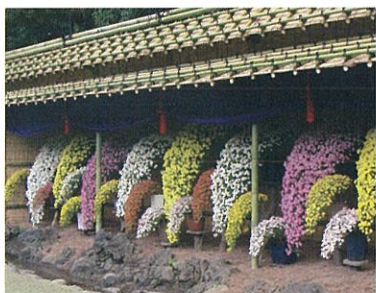


清新優美のあでやかさ



菊

特色あふれる



けんがいづくりかだん 懸崖作り花壇

野菊が断崖の岩間から垂れ下がって咲いている姿を模して、1本の小菊を大きな株に仕立てる技法を「懸崖作り」とよびます。

古木の台の上に、花鉢を配色よくならべています。

作り始め：大正4年(1915)



いせぎく、ちょうじぎく、 伊勢菊、丁子菊、 さがぎくかだん 嵯峨菊花壇

伊勢菊は、伊勢地方(三重県松阪)で発達した菊で、縮れた花びらが垂れ下がって咲きます。

丁子菊は、花の中心部が盛り上がり咲く菊で、アネモネ咲きともよばれています。

嵯峨菊は、京都の嵯峨地方(京都・嵯峨野)で発達した菊で、細長い花びらがまっすぐに立ち上がって咲きます。

作り始め：昭和30年(1955)



おおづくりかだん 大作り花壇

初冬に出てくる芽を1年がかりで枝数をふやし、1株から数百輪の花を半円形に整然と仕立てて咲かせる技法を「大作り」とよびます。

これは新宿御苑独自の様式で、全国各地の菊花壇展でみられる千輪作りの先駆けにもなっています。

作り始め：明治17年(1884)



新宿御苑の菊花壇は、回遊式の日本庭園内に上家(うわや)といわれる建物を設け、特色あふれる花々を独自の様式を基調に飾りつけた花壇です。

それぞれの花壇は、順路に沿ってご覧いただくと、最も美しく鑑賞できるようにデザインされています。



第一露地花壇



菊花壇展会場へは、
日本庭園の中央入口
よりお入り下さい。